

1. 題材名『ギコギコトントンクリエイター』

<「絵や立体、工作」・「鑑賞」> (上：P.60,61、下：P.18,19,60,61)

2. 題材について

木に触れて感じたことや想像したことから表したいことを見付け、適切にのこぎり、金づち、釘等を用いて表現したり、自分たちの作品の鑑賞を通じて見方・感じ方を広げたりする活動。

3. 題材の目標

(1)知識及び技能

- ・自分の感覚や行為を通して、形や色などの組み合わせによる感じ分かる。
- ・木やのこぎり、金づち、釘等を適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。

(2)思考力、判断力、表現力等

- ・木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すか考える。
- ・自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- ・形や色などの組み合わせによる感じを基に、自分のイメージをもつ。

(3)学びに向かう力、人間性等

- ・進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を想像しようとする。

4. 題材の評価規準

I 「知識・技能」	II 「思考・判断・表現」	III 「主体的に学習に取り組む態度」
・自分の感覚や行為を通して、形や色などの組み合わせによる感じが分かっている。 ・木やのこぎり、金づち、釘を適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などの扱いについての経験を生かし手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。	・木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すか考えている。 ・自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 ・形や色などの組み合わせによる感じを基に、自分のイメージをもっている。	・つくりだす喜びを味わい進んで木を切断したり、接合したりして立体に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

5. 準備物 (用具や材料)

児童：軍手

指導者：木材 (地域提供)、のこぎり、金づち、釘 (2種類)、木工用接着剤、万力、クランプ、紙やすり等
ワークシート、掛け図、参考作品 (部品や接合例)

6. 学習計画 (全6時間)

時間	○学習内容・●学習のねらい	□指導内容・■評価方法【評価材料】	I	II	III
1 - 2	○題材について理解する。 ○のこぎりの扱いを知り、木の切断を行う。 ●道具を適切に扱う。	□題材について全体の計画を伝える。 □道具の使用方法和安全面についての指導を十分に行い、常に児童が意識できるように黒板に掛け図を掲示しておく。			態
3 - 4	○切った木を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。 ●木から発見した形や色から自分の表したいものを見付ける。	□木から見付けた造形的な特徴を基に、自分の表したいものを見付けることを伝える。 □木の接合について、金づちや釘、接着剤等について説明する。 □必要に応じて作品例を提示する。 ■木材を重ねたり並べたりしながら、組み合わせによる形の感じに着目している様子を評価する。【活動・対話・作品】 ■自分の表したいことを見付け、どのように表すか工夫している様子を評価する。【観察・対話・作品・記述】	知	表	
5	○木を切断したり、金づちと釘、接着剤等を用いて接合したりし、表したいことに合わせて表し方を工夫する。 ●自分の表したいものを工夫して表す。	□思いのこもった作品や、工夫の見られる作品を取り上げ、活動を促進する。 ■適切に道具を扱うことができている、表したいことに合わせて工夫して表すことができているか評価する。【観察・作品】 ■自分のイメージをもちながら、自分の表したいことに合わせて考えながら表している様子を評価する。【観察・対話・作品】	技	表	
6	○自分たちの作品を見て、感じ取ったり考えたりしたことを友人と話し合いながら、自分の見方や考え方を深める。 ●友達の作品のよさや面白さに気付くとともに、自分の作品を大切に作る気持ちをもつ。	□友人の作品のよさや面白さを自分の作品と比較するなどして、造形的な特徴と発想や構想の観点から、見方を広げる方法を示す。 ■木の形や組み合わせによる感じ等を基に、自分のイメージをもちながら、見方・考え方を広げている様子を評価する。【観察・対話・記述】 ■活動全体を通して、主体的に知識・技能、発想・構想の力を高めようとする態度を把握し、最後に評価する。【観察・対話・記述】		鑑	態

7. その他 (留意事項)

- ・教科書では工作として扱っているが、道具の基本的な習得に重点を置くため本題材では立体として扱う。
- ・作品は学校のガラス棚に陳列し、事後も鑑賞できるようにし、他学年・保護者にも紹介する。
- ・図画工作室で行うので、移動時間等を考慮する。

7. 本時の計画：5時間目<〇〇年〇月〇日（〇）第〇限 場所：図画工作室>

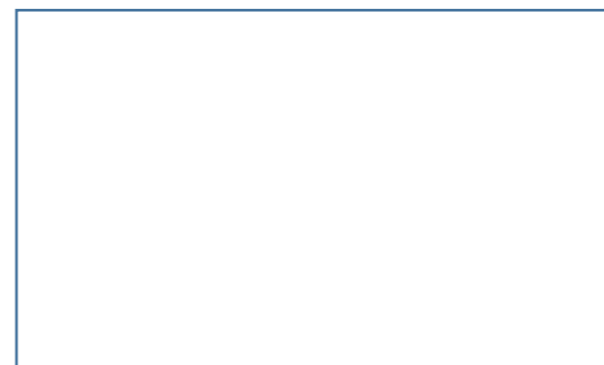
●学習のねらい ・ 〇学習内容	□指導の留意点 ・ ■評価方法 ・ 【評価材料】	I	III	III
●「自分だけの形に仕上げよう！！」（自分の表したいものを工夫して表す。）				
<p>○友達の作品に対する思いや工夫しているところに気付く。</p> <p>○自分の作品に生かすことができるか、自分だけ形作りをするためにどのような工夫ができるか考える。</p> <p>○安全に作業ができるよう、材料や用具の扱いについて確認する。</p> <p>○本時のねらいと、予定を確認する。</p> <p>○自分の作品、材料、用具を準備し活動が始める。</p> <p>○自分の表したいものを表すために工夫して活動に取り組む。</p>	<p>□前時までの状態を写真で撮影したものをスクリーンに映し、友達の思いや工夫しているところを具体的に説明する。</p> <p>□自分の作品に生かすことができるか、自分の作品のためにどのような工夫ができるか考えを深めるように示す。</p> <p>□作業に入る前に、再度材料や用具の扱いについて説明し、安全について留意する。掛け図を用いて確認する。</p> <p>□本時のねらいと、今後の予定について説明する。（本時での完成を目指すことを伝える。）</p> <p>■準備を含め安全に気を付けながら、適切に道具を扱うことができているか評価する。【観察・作品】</p> <p>※技能について評価するポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切断の技能について（のこぎりの扱い） ・接合の技能について（金づち、釘、接着剤の扱い） <p>□前時までに、十分に道具を扱うことができていなかった児童に着目する。</p> <p>■自分のイメージをもちながら、自分の表したいことに合わせて考えながら表している様子を評価する。【観察・対話・作品】</p> <p>□児童の表したいものを確認しながら対話と観察を行う。</p>	技	表	態
<p>○片付けをする。</p> <p>○次回の予定を知る。</p> <p>○ワークシートを受け取る。</p>	<p>□本時の活動の終了を告げ、片付けの指示を行う。（安全面と作品の保持に留意する。）</p> <p>□次回、相互鑑賞の時間をもつことを予告する。（未完成児童への対応を検討する。）</p> <p>□ワークシートを配付し、内容を確認しておくことを伝える。（詳細は次回説明する。）</p> <p>■主体的に資質・能力を高めようとする態度を把握する。【観察・対話】</p>			態

8. 参考資料

・参考作品



・掛け図



・ワークシート

